

第 1 問 次の文章を読んで、後の問い(問 1 ～ 6)に答えよ。なお、設問の都合で本文の段落に 1 ～ 13 の番号を付してある。(記号 48)

- 1 多様性という観念は、たがいの違いを認める、ひとを他に向けて開く、ひょっとしたイメージで、そして抵抗もなしに受けとめられている。差異の肯定、つまりは、生きとし生けるものを、あるいは文化を、それぞれがその姿のまま肯定するというのが、それがこの観念には込められている。ある程度の差異の存在をなにかある別次元の同一性のもとに回収するというのが、海に抵抗するものとして、多様性は非同一般の側にくちなる観念であるといふやうに感じられている。現代社会では、多様性こそ我々の理想であるかのように、押し売られた(つまり、よく言えばなくせせられたい)少数派の「ヨウゴ」という点からは、2 が、多様性と言ったとき、それを人びとはどのような観点から眺めているのだろうか。それこそ、それぞれに多様な場所からだつた。それとも、多様性を一望できる別の地点からだつたか。

- 3 たとえば、文化の多様性。多様であるからには、文化はたがいに異なる複数のあり方をしているといふことが前提とされている。しかし、たがいに異なる複数の文化が存在するというのは、そもそもどのような事態を想定して言われているのか。

- 4 もっとも単純な規定から見てゆくと、D・スベルは、相対主義を批判する文脈で、相対主義の考え方を次のような命題に与りまとめている。いわく、『異なる文化に属する人びとは異なる世界に住む』と。ひとは言葉とその意味によつて世界を分断し、解断しながら生きていく(たとえば北極圏に住む人びとによつて、わたしたちが白いと形容している雪も氷も白熊も現物、異なる色として与えられていると言われる)。色(分節)も、自然の事物や現象の分節も、あるいは家族や社会関係のあり方も、言葉と文化が異なれば当然異なる。世界はそれぞれの流れにおいいて理解され、まだ組織化されており、したがつてすべては世界はそれぞれに明確に現れているといふわけだ。つまり、A「世界はそれじたいかに多^{おほく}型的な現象なのである……」が、ここであつてしまつ。世界は多型的な現象であると言つたときに、たせ多型性を超えて、多型的に現出する一つの

- 6 たしかに、ここで問題になっているのは真理の複数性、真理の相対性という問題ではない。真理の複数性を唯一の真理として主張すること、真理の相対性を絶対的な真理として主張すること(自己撞着に^{おこつ}おこす)のは、すべてにわたる道理である。ここでも問題になっているのはむしろ、真理が真理であるための条件の複数性であり、相対性である。つまり、世界の現われは、それを中心に意味ある現象や出来事としてとらえる一定の「解断図式」(たとえば思考の「システム」、プログラマー、意味の組織性)に相対的であるといふことが言われているのである。真理は一定の「解断図式」と相関的なものだから、そして人びとはつた特定の「解断図式」のうちに住み込むといふその生を開始するのだから、当然、『異なる文化に属する人びとは異なる世界に住む』といふことになる。するとここからは、異文化間の相互理解や交通は不可能であるといふ議論が導きだされるものではない。あまたの相対主義批判はここについてくるのである。

- 7 そうだとすると、すべての世界現出はみな主観的なものであるといふこと、いかえると、真理はつねにある特定文化が内蔵する「解断図式」のなかで成り立っていることになり、結局は、この世に真理は存在しないといふ、懐疑主義や認識論的イメージが解凍しないことになる。といふわけで、真理の探求をミッシュとする挙動にたいがなりだたなくなる。それを回避するために対抗的に立てられるのが、異なる世界解断のなかにもつては「変項」が存在するという議論である。相対的に見えるのは世界現出の「表層」におけることからすぎず、その「深層」にはかならずなにかのイメージがアノイムに見えだせるというのだ。つまり、『世界』の多様な現象形態の背後になんらかの「認知的な普遍」ないしは「道德的な普遍」が存在するはずだといふのだ。これに対しては、もちろん相対主義からの強烈な反批判がある。そうした認知や道德における普遍(変項の存在)は、それぞれの世界解断の図式を超越するものとして、しかしかるまで特定の文化的地平のなかにある特定の「解断図式」の内部に収められた理論的な構築物にすぎない。だから、そこではいわれる「普遍」は、異なる世界解断をとおののける世界解断のなかに断片・墜落したつて、まるで解断図式を越えるかのように「普遍」を構築してひるにすぎない

8 B「相対主義による」の反批判は皮肉なものである。といふのも、反相対主義者による相対主義の規定、『異なる文化に属する人びとは異なる世界に住む』をそのまま受け入れていくからである。人びとはみずからが住み込んでいる世界の外について出られないといふ帰結を、反相対主義者としては共有してはいるといふことになるからである。

- 9 こうした議論の循環、ないしは相対主義と反相対主義の隠れた共犯関係に、いわば斜交^{おかしな}いから異議を唱えるのが、クノート・ギアの「反一相対主義」という論文である。反一相対主義とは、ある意味、きわめて曲折したシステムである。それは、形式のうえでは、共產主義をうへ^おかきすることなく反共產主義(マカシズム)を批判する議論、中絶の法的制限に反対する議論に賛同することなく反中絶論を批判するといふ議論に似た、いわば二重否定のシステムをとる議論であつて、「拒まれている対象を受け入れる」となく、拒んでいるものを拒む。

- 10 相対主義者と反相対主義者との論争は、分析上の議論といふよりもむしろ「警告の伝達」だ。ギアはいう。「身につきすぎ、評価しすぎといつてはいくらに過剰にみずからの社会を受け容れると、知覚が鈍り、知性が萎めつけられ、共感が狭まつてしまつ」といふ、自文化を過大に見積もる「偏狭」への警告が相対主義者から反相対主義者に対してなされ、他方では、あるものを受容することですべてが有意味となれば、それはすべてが無意味であるといふに等しい、いかえれば、理解できるものはないと許されるという、いわば二通りの熱帯地にかかつて、反相対主義者は相対主義者に警告する。

- 11 ギアがここですべてに批判のターゲットとするのは、「人間」という「システム」に拠らない概念である。「最小限の装備、本体価格だけにきいて反相対主義者が依拠しているのは、「人間」という「システム」に拠らない概念である。「最小限の装備、本体価格だけのhome」と、正味の、添加物一切なしのsupplies)と認められた、いわば文化めきの人間概念である。ここに持ち込まれるのは、自然主義的な説明をとるばあなら「人間の本性」であり、合理主義的な説明をとるばあなら「人間の心性」(お好きなには「知性」や「深層心理」と言つてもよいし、道徳子や大層の構造を想定してもよい)である。複数の文化をつらぬいて、そういう不変項もしくは「定数」が見いだされるはずだといふのである。

- 12 もしそうだとすると、文化の多様性はこの「定数」からの「逸脱」の具合の多様性を示すものだとこのことになる。その「逸脱」の具合はすべてに正常/異常とすに差をこすられる。その傾向を把握して、ギアはいじわるな例を差し挟む。文化のシステムに左右されない普遍的な「人間の本性」を言つのなら、たとえば他人を嘲むといふわたしたちの習性はどうか、攻撃としての嘲む、愛撫としての嘲むは正常で、偏執狂的な嘲むは異常なのか、と。「人間の本性を自然として理解するならば、システムはあまり力を入れて嘲みすぎなければ自然である」といふような珍妙な理になる。つまり、わたしたちの習性には「自然な自然」と「不自然な自然」とがあつて、その習性が「適切に機能する」かぎりには自然で、そうでないばあには不自然だといふ議論になる。が、そもそも、ここでも習性がないように機能することと「適切」と考えられているのか、その「適切」の判定はどこでなされるのか、わたしたちの生を自分自身が磨いたシステムを通して見るのであるし、他の人たちがわたしたちの生を彼ら自身から磨いたシステムを通して見る」といふこと、これが異文化にふれるときのもっとも基本的な事実であつて、そうした接触のなかで(みずからの地平を設定しなおし、視野の中心をずらす)にとも必然的に起る。異なる文化との接触においてどのようにみずからを疎離化するなかで、「わたしたちの感覚についての感覚」「わたしたちの知覚についての知覚」が変容しかけていくるときに、「世界の縁から転落してしまわないうちにと言ひ者の歌や昔の物語に立ち戻る」のは意味のないことだ。これがギアの底層の議論である。

(池田浩一『ひとの現象学』による)

- (注) 1 D・スベル、タン・スベル、クノートの人類学者(一九四二)。
2 徳島——自分を磨いた磨きをとるこ。と。
3 クノート、ギア——アメリカの文化人類学者(一九六二〇六)。
4 コノタスム——文脈。

問 1 傍線部 A「世界はそれじたいが多型的な現象なのである」とあるが、それはどういことか。その説明として最も適当なもの

を、次の ① ～ ④ のうちから一つ選べ。解答番号は

- ① 1 ② 3

- (ア) ① 国旗をクエ「ヨウする
② カ「ヨウ」ながら「向き合う
③ チョウ「ヨウ」の腔に従う
④ 新人候補をヨウ「ヨウする

- (イ) ① ト「カ」工事で建設する
② 事をトウ「カ」に付す
③ 首都がカ「ヨウ」する
④ 摂得をカ「ア」する

- (ウ) ① 受けた親切に「ハ」ボウする
② 供物をホウ「イ」する
③ カ「キ」コウ生活者
④ ビ「カ」サケを辭しる

問 2 傍線部 A「世界はそれじたいが多型的な現象なのである」とあるが、それはどういことか。その説明として最も適当なもの

を、次の ① ～ ⑤ のうちから一つ選べ。解答番号は

- ④

- ① ひとは言語を通して世界を秩序つけて理解して生きてゐるのだから、世界は単一なのではなく各々の言語や文化として異なる現れ方をすること
② 異なる文化に属する人は世界をそれぞれ異なる仕方で分節してゐるのだから、唯一の客観的な世界は存在せず、文化の相互理解は不可能なこと
③ 北極圏では「旦」の概念が豊富なように、言語はその地域の自然環境に依りて世界を分節化してゐるのだから、世界はそれじたいが言語や文化に依りて多様なこと
④ 人びとは個々人で異なる語彙を理して世界を認識してゐるのだから、世界を解釈する語彙の違いによつて、世界の現れ方は様々に変化するること
⑤ 文化が異なれば言語のあり方も自然環境や社会制度も違つたものになるのだから、文化は多様であり、互いに異なる教のあり方をしていること

問 3 傍線部 B「相対主義による」の反批判は皮肉なものである」とあるが、それはなぜか。その理由の説明として最も適当なもの

を、次の ① ～ ⑤ のうちから一つ選べ。解答番号は

- ⑤

- ① 世界の現れ方は各々の文化に依りて相対的ではあり得ないという反相対主義の主張に対して、そのような様相はあくまでも世界の表層におけるものに過ぎないと相対主義が批判すること、結局のところ各々の文化は世界を主観的にしか捉えられないという結論に至つてしまつから。
② 世界現出の深層には認知的・道徳的な普遍性が存在するという反相対主義の考えに対して、そのような発想も世界解釈の一つにすぎないと相対主義が批判すること、異なる文化はそれぞれその解釈図式の外部には出られないことを自ら認めることになるから。
③ 真理の相対性を絶対化することは矛盾していると主張した反相対主義に対して、そのような主張を真理として提示すること、もまた一つの世界解釈に過ぎないと相対主義が批判すること、異なる文化に属する人は異なる世界に住むといふ考えを固らすも受け入れてしまつから。
④ 多型的に現出する世界の根底に何らかの「不変項」を具出す反相対主義に対して、そのような「不変項」は特定の解釈図式の中で「しらえられた虚構にすぎないと相対主義が批判すること、かえつて自らを「普遍」の立場に位置づける矛盾をおかしてしまつから。
⑤ 千変万化する自然現象の背後には不変の真理が存在するという反相対主義の思想に対して、それはあらゆる世界解釈を自己の中で統合しようとする虚構な思想だと相対主義が批判することは、かえつて異文化間には分断されておち相互理解は不可能という自らに不利な結論を招いてしまつから。

問 4 傍線部 C「その傾向」とあるが、どういことか。その説明として最も適当なものを、次の ① ～ ⑤ のうちから一つ選

べ。解答番号は

- ⑥

- ① 文化的文脈に拘束されない普遍的な人間の本性なるものは、結局は人間の多様な文化や習性のうちからその本性に照らして恣意的に自然・適切なものとして、でないものとして判断することになりだしたこと。
② 相対主義者が言うように反相対主義者は自文化を侵れたものとして過大に評価しがちであり、他の文化を普遍性のない劣つたものとして軽視する「偏狭」な態度をとり続ける傾向にあること。
③ 文化の多様性を文化的コンテクストに依存しない人間概念からの逸脱の程度の多様性と捉えても、その捉え方は一定の価値付けを伴つ傾向があり、相対主義的な発想から遠ざかつてしまつこと。
④ 多様な現象形態をもつ文化の根底に不変項としての人間概念が存在するという主張は、自文化の考える人間の概念を前提にした議論に過ぎないため、異なる文化のコンテクストの中では成り立たないことにあること。
⑤ 文化のコンテクストから独立した普遍的な人間像を提唱する反相対主義者は、文化の多様性をどの程度合理性から逸脱しているかという観点から認識するか、合理性の基準は各文化によつて異なる場合が多いこと。

① 本文の導入部分にあたる第①・②段落では、まず多様性という概念に関する一般的な言説を取り上げたあとで、その多様性を語る視点の位置に着目することで問題提起を行っている。

② 第3段落で議論の焦点を文化の多様性に定めたうえで、第4[]、6段落では相対主義的な文化の規定とそれに対する反相対主義の立場からの批判を述べる展開になっている。

③ 第7条・③ 恩給では、存命主君と反存命主義による掛断の応酬について述べた後、その対立の間に見られる二者の共通点に言及している。

④ 第⑧・⑨ 以降で、同様に主義と反対が主義の禪寺に対する第三の立場として、相反主義を受け入れることとなく、相反主義を拒むというキツアの立場が紹介されている。

⑤ 第11頁133段落では、ギアツによる反相対主義批判に言及しつつも、人びとは自分の解像図式からは出られないといふ、相互理解の限界が強調されている。

生徒A——近年、頻りに多様性の尊重ということが言われているが、それとまたいってそのようないことが実際に叫ばれるようになったのか？

ଆମେ ଗୋଟିଏ ପ୍ରକାରର ଗୋଟିଏ

生徒B——うーん、色々ありそうだけど、本文の第1段落には『政治』に抵抗する」ということが指摘されているね。

生徒C——「二つでいう『政治』というのは、例えば	X	というところかな。
--------------------------	---	-----------

生徒A——そうだね。それから、多様性の尊重は個性の尊重とセットで語られることも多い。

生徒B——一人ひとり異なる個性を持つことから、その違いを認め合おうというとなかな。

生徒 A——その点なんだけども、実は本文とは別の箇所です。筆者は次のようなことを述べているんだ。

ひとは一ひひとり異なる個性をもつ、それゆゑに多様だといふのは、わい、その個性が発現するその源をそのひとの「内面」に仮構し、それについてはわたしにはうかがひ知れない、つまりわたしの解釈図式への翻訳という操作によつてしか近づけないといふふうに考えるならば、他者への（共感）とは、自他の相互隔離（パルトヘン）にしかならない。他者を仮構された「他者」自身のうちには幽閉するといふことにはしかならない。他者性の尊重といふ議論にはこつこつと危うさが含まれる。

生徒(「最後の「何ぞ」」)というのは、「本文でいう文化の文脈に置き換えると、
 Y

生徒ひとり——なるほど。実はいま、地域に住む外国人の方々に学校に迎え「異文化交流会を開催する企画を進めていて、その案内文に企画の趣旨を書く必要がある。どのような方向性で書いたらいいだろう。」

生徒①——授業で学んだ本文にヒントがあるんじゃないかな。本文第13段落に「ですから疎隔化する」という話があつたよ。

生徒②——そうか！　じゃあ例えば

Z

、といった方向性で企画を検討してみようかな。ありがと。

。 97/10

• 5/17

(i) 空欄 X に入る発言として最も適当なものを、次の①、②、③、④のうちから一つ選べ。解答番号は 8。

① 社会に存在する様々なルールや慣習を批判的に検証し、公正・公平な社会の構築を目指すとする動き

② 多様な民族が暮らしている地域において、争いを避けるために互いの生活領域を明確に区切ろうとする動き

③ 同じ宗教や生活様式を共有する集団が一定の場所に集まつて独自のコミュニティを築くこととする動き

④ 現実には存在する様々な性自認をなござりにして、男性／女性の二元論的な発想で物事を推し進めようとする動き

(14) 空欄 Y に入る発言として最も適当なものを、次の①、②、③のうちから一つ選べ。解答番号は 9。

① 《異なる文化に陥する人びとは異なる世界に住む》というように、
 各々の文化のもつ一定の解釈図式は自他を相互に
 隔離する作用をばたててしまふ

た「普遍」を簡稱することになりかねない

げた異文化のイメージに当の異文化を還元してしまうことになる

④ この文化にも独自の思考のシステムや意味の体系のようなものがあるけれども、すべてが主観的な認識枠組みにとどまるのであれば、すべての真理は相対化されてしまつてことになる

(iii) 空欄 Z に入る発言として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 10。

- ① 異文化とのふれあいを通じて、異文化の世界は自分のルーツを通じて知覚できる範囲に限られていることを知る
- ② 異文化とのふれあいを通じて、自分が自明と思っていたことに気づき、それまでとは異なるものの見方を得る
- ③ 異文化とのふれあいを通じて、海外の様々な文化のルーツを身につけ、異文化への理解を深める
- ④ 異文化とのふれあいを通じて、これまでの自分の世界認識を揺さぶり、改めて自己自身の拠り所を探求契機にする

第2回 次の文章は黒井千枝「椅子」（一九七〇年発表）の一節である。「B3」という商品の販売企画を進めていた北川四郎は、突然、上司である部長からその企画の中止を命じられた。これを讀んで、後の間に（間一丁）に答えよ。（配点 45）

理由を説明して下さい。私ははじめてしも……。まだ椅子に坐つたまま後を通つた北川四郎の声の前に、金属製のドアが乾い

た音を立ててしまつてゐた。おひつ決まするるのは許さない、と北川四郎は思つた。あの紺色の大型の部長椅子が決めるのならまだ俺は許せるだらう。何故ない。俺の坐つてゐるのはスナール製の安いソファのところに背もたれだけしかつてゐない丸い椅子であり、二つの椅子の間の隙には雖然としてゐるのだから。しかしその上に坐る人間についていへば、北川四郎は自分の販売といふ業務についての知識と経験が、部長の持つそれより貧しいとはじめてしも思えないのだ。部長の背後にはアがしまつて一呼

吸つた時、椅に坐つてゐる直接上司である販売企画課長がどふえんかどふえんと奇妙な声をたてて笑つたがきこえた。その笑い

が、怒つて丸くぐへんた部長の後姿の精確で、部長に対して遂に何事もない得なかつた課長自身の無力さとにわけられたものであつたのは明らかだつた。Aにて笑わなければいかい、と北川四郎は思つた。この笑いが、あの部長の支配する部屋の中

で生存し続けるために絶対必要な生活技術であることは、北川四郎自身も十分に認識してゐた。その笑いが、自分の中に王立

ちになつてしまつた王立な赤い怒りに肩すかしを喰わせ、まあまあとなだめ、仕方ないよと強める部長の無精刷の働きをするわけだ。笑いはしかい、皮膚がこわばつてしまつた北川四郎の顔にこつても痒かんで来なかつた。

北川四郎は、C45の前に今や老朽化してしまつたB3をあまりに愛しすぎてゐた。それは性能本位の、どふらかといへば不変的な電気掃除機だつた。家電製品がみな様々の意匠をとり入れて美しく装つてゐる今日、B3がどういつまでも生きられる商品ではなかつたは彼も十分に認識してゐた。だからこそ、彼はソファを終つとするの朴訥な商品のための美しい意を建てるつ

もりで最後の販売企画をまとめたのだつた。企画は部長の承認をとり、部長の内諾さえ得て、一部既に動き出してゐた。月例の主販売店会議の席上、非公算で、こつとわかりきつた上での催物の企画は故意に一部壊された。C45への形式切り替えを

つまずき懸つてゐるつき出してゐる販売店を勇気づけ、その在庫を「確させるためにキヤンペーン」計画の一部を壊してしまふ

う、と言つたのはあの部長ではなかつたが。

こつとわめきかきこつて来てゐた。北川四郎が自分の席にかえる時、なれない手付きでそこはどきどきとばたきどいてゐた森村がひたすつはく目をめけて、又やり直した

へ笑ひだす身体の中にこつとめなない、それでも少しは申し訳なきさうな声で言つた。固く静まりかゝつてゐた部屋の中に、又めつ

た、と言つた。北川四郎は黙つて息を強ぐ吐いた。彼立つてしまつた身体に、何か生理的な解決を与えてやることが必要だつた

のだ。北川さんの今度の企画は、かたはつて作つたもんね、と苦してつゝに息を絞める北川四郎を見て、B急に笑顔をひつこつめた森村が

言つた。真顔になると、眼鏡の中の黒い目は病人をいいたむ森らかなか光をただえたものに変つてゐる。眼鏡のその柔らかな目を使

は欲しくはない、と思つたけれど、同時にそれは森村自身の同じような経験に根ざして生れて来てゐるものなのかもしれなかつた。そうだとすれば、森村の柔らかな目は北川四郎にわけられたものではなく、単に彼自身への慰めのために光つてゐるにすぎ

ないのだ。突然前の机からくると椅子をまわした木野が、急に仕事上のことでも思つたような口調で言つた。でもぞ、北川さんと

あの部長と、ちよつと似てゐるところがあるんじゃない？、似てゐる。と思わず声をあらはけてきかえしながら、折角じすまりはじめてゐた身体の中に又血柱が立つのを北川四郎は感づいた。似てゐることぞ、いまをすることじすまないですよ。細かく

て、やかまして、企画資料の整理主義のところなんか。今度のB3の企画資料をみてぞ、星軍に部長のスタイルのこつとてゐるものね。北川四郎の声に押されだして木野は少し椅子をずらしたぞ、并解するといふ風ではなく、単純に自分の考えをの

べるのだといふ若い者特有の素直さと図々しさでその言葉にはあつた。部長の承認を得るために部長好みのスタイルの資料を作るのは技術の問題じゃないか。北川四郎は木野の顔を反復しながら多少失聲してみと口調で言つた。それだけじゃないですよ

と、おつと別に、たとへばね、と急にこつと大どきに顔を近づけて、字が似てますよ、字が、と言ひ終ると北川四郎が驚き出す

のを見つけたかのうにばかりと笑ひ急に背をむけて仕事におもひつてゐた。そつたな、北川さんが部長になつた、い、部人は大變だらうな、と頼から森村が笑顔で同意した。

「似てゐるよ、どうぞ、おひつと俺が違つのは椅子だけだ」

北川四郎は睡ぐ丸いスナールの椅子を乱暴に机にひきつけた。椅子はガチャと足にこつてゐる車の安つぱい音を立てた。

北川四郎の気分はまだ鎮まらなかつた。部長との見解の対立は、それを対立として身体の中に入れて自分で罰すれば良いといふものではなく、既に「一部動き始めてゐる営業本部及び一部の販売店にスナールをかける」といふ対外的な断事ははらへてゐた。北川四郎としては、企画の事実を見込んでひそかに若い営業部員を煽動してまわつてゐたのだ。部長から中止の決定を言ひ渡され、しかも課長が頼りにならな以上、もはやあの企画の可能性は全くないものなのか、おし動き出した部門にスナールをかけるとするれば、どこからどう説明してスナールをかけるか、それ等を冷静に考えぬくためにには、なによりも自分の動揺をこつとすめねばならない。

「敬告して来ます、と北川四郎は無愛想に課長に言つた。課長は仕方がない、という顔でうなずいた。エレベーターで地階に降り、そこから地下道つたに行けるデパートへと彼は歩いてゐた。食料品売場の喧嘩、玩具売場の色彩、婦人販売場のど

こが通つぱい空気をひたひたながらスナールタワーで右に左に折れつと昇上してゐるのが、自分をわてあました時の北川四郎の気分転換の方法だつた。スナールタワーが七階についた時、彼の身体は予想してゐなかつた柔らかな襦間の中に吸ひこまれた。

床をはうちに低く音楽が流れ、正面の柱に北欧の国旗が垂れ、「アニエアアエ」といふ銀色の美しいアサナエ文字がその横に天井から吊られて睡つてゐる。八階へのスナールタワーの昇り口にむかわず、彼は快い襦間の中に溶け込むように胸み

入つてゐた。外光を遮断されたフロアのあちこちに白い光、オレンじ色の光が小さく気ままな円を描き、その中に堅実で均斉のとれた北欧の家具が白い木目を見せて静かに漂き上つてゐる。「適量につき休憩せよ」遠慮なくこつとアナールの上にたてゐ

れた注意書を無視して、彼は一つの大きなソファにゆつたりと腰をおろしてみた。坐るものをやたらに迎合するのではなく、

だが、もはや収容する空間のことは全く考えずに彼の腕をゆつてその家具の購入を検討し始めてしまふ事が悪い出されだ。入れる時、結婚前のように彼女は自然に彼の腕を取つた。気に入つた家具があると（それがなかつた）こつとは常に有り得ないのかだつた。デパートに来ると必ず家具売場をのぞかなければ気がすることがかつと頭に浮かんだ。そのフロアに足を踏み坐るといふ行爲を正確に受けとめる節度正しい反応がそのソファにはあつた。どこか粗い上張りの布の手ざねりまだが壁に裂

がるに違ひない。小さな国旗が開かれた扇のようになつてゐる白木つくりのソファを見おろしながら、彼は次の肘掛け椅子に腰をおろしてゐた。坐ることはいよいよとでも言つような端正な椅子の鋭い主張がそこにあつた。それに負かれて

敏感に反応する小柄だが柔らかな妻の身体が思われた。どの椅子も、同じように自然で正確な坐り心地を持つてゐた。国旗の旗の価格表示の白いアサナエ文字が板だけが、その坐り心地の堅実さと正反對な軽薄で多くのセロを運ばて並んでゐる。少し近

みとるに違ひない。応接ソファの価格は、僅に彼の年収を土まわつてゐた。眠てゐるが早く、すべての問題を自分に都合よく解してしまふ美徳を持つあの姿であつたら、おそろくこの数字を二桁は少なく読

飾り言細があり、サナエ文字があり、朝の匂いのする食卓セットがあり、澄んだ水溜りのような壁鏡があり、摺り椅子があり、可愛らしい国旗の群れがあり、そして膨大な数字の列があつた。その中を、ほとくと家具の箱のようになつて北川四郎はそ

まよつてゐた。

でも、ひとまわりしてしまつともつ買つたよつな気分になるのだから、私の経済的でないよ、と家具販売からの贈収を降りる時まづつて言つた火照りを残した妻の言葉が思ひ出されてゐた。それは目の前に星の光に白くばやけてゐる階段が迫つ

たからかも知れなかつた。「アニエアアエ」の展示はこつと終り、踊り場にてソファとソファの田けた階段がひらけてゐた。そして、北川四郎のアニエアアエでも、足が階段にかかつた瞬間に終りをとけてゐた。彼の身体は、祭りの後

の喧しさを運ぶとつと固い階段を一段一段と降りはいめる。ソファソファの淵を過ぎ、こつと向きをかえて踊り場から次の階段にさしかかつた時、彼の目に大階の難然とした日用品売場の光景がこびつて来た。快い襦間から出て来た彼の目に、その光景は

あまりに現実的であり、あまりに影のない光に照らされすぎていた。フロアの俯瞰が次第にその眺望の興行きを失い、人々の頭が自分の目の高さになった時、彼の視線はすく前に並んでいる机と椅子の列に落ちた。土階の催物のために押し出されたのが、そこにはスチール製を主とする国産のビストロ系デスクと椅子とがせしめ、押し合ふようにして並べられていた。土階の優雅な展示のことを考える時、^E「そのデスクの列は殆どやかな事務機材の羅列にすぎなかった」。

しかし、北川四郎はそれ等の中からほとんど意識のうちに自分の目が一つのスチールデスクと肘掛けのない机椅子を選び出しているのに気づいた。それは機に広ひき出しが一つと縦に三つのひき出しがならび、一登下のものがフアイルをだてて出しているように映った。近寄った彼の目に、椅子の背のスチールパイプから垂れている価格票の三八〇〇円という数字が読めた。土階の椅子に比べ、それはあまりにも安価に思えた。その機に、同じようなフアイルに縫られてはいたが、坐ると二つが一段と広くなり、肘掛けのついた課長用の椅子が並んでいた。課長以上はビストロの中央系に關係なく、表面は広くなり、腕の有無に關係なく肘掛けを備えた椅子が並び出ていることになっていた。その椅子に垂れている価格票の数字は六〇〇〇円を示していた。北川四郎は頭の中で二つの椅子の価格をすばやく比較していた。彼の椅子に比して大割高に価格の椅子に坐っている課長の給料は、彼の給料に比してそれ程の開きを持ってはいないだろうと思われた。つまり、給料は坐る椅子の価格にストリートに比例してはいない。とすれば、価格のより高い部分だけ、椅子は縦限の大きさを參照しているかも知れない。そして、彼の視線はごく自然に課長用の椅子を離れて部長椅子を列の中にさがしていた。それは課長椅子の二つ先に並べられていた。背当ての上部三分の一と肘掛けの上部にクレーターの二ールザーが張られ、その他は箱のクロスでおおわれた一段と大きな椅子だった。課長椅子が肘掛けとはいつても肘を支える部分はいわば棒を曲げた形になって側面が接しているのに対して、部長椅子になると側面も厚いクロスの壁でおおわれているために尻は三方を箱の張らかな面が包みこんで包まれた形になり、より一層ごつごつとした感じが生まれる。しかも、脚部については、回転軸から四方に取り出した車輪をもつスチールの上部に、^F鉄板のように光る金属製の脚りが埋めこまれていた。北川四郎の手は机の上にはいり出されてはいる椅子の価格をすばやく読み取った。一六五〇円といふその価格は彼自身の机

事務椅子の価格の四倍以上にあつてはいたが、これも又給料の開きよりも大きいと感じた。しかし、その倍率そのものよりも、彼には一六五〇円といふ金額に出して三八〇〇円といふ金額が不当に貧しく思われた。いつか近くの家具店からかつて歸っただけの木製の椅子だつてそれよりは高かつた筈だ。部長用に使われている椅子をひき出して北川四郎はその上に腰をおろしてみた。見たところよりクッションは固く、柔軟なく、今土階で坐つてみた北欧製の椅子の感度とははるかにかけ離れたものだ。しかし、その程度の坐り心地さえオフィスの中で自分には与えられてはいないのだ、と彼は思った。背をもたせかけると、椅子は二重のクッションで背後にゆるく倒れた。それはわざとらしい眠気來らかきだつただけで、それでも彼が坐らせられている机椅子の申し訳程度の弾力にくぐればやはりはるかに快かつた。この椅子が、彼のB31の販売企画をこつたのだ。^F「弾かれたように彼は部長椅子から立ち上つていた。先刻自分が叫んだ『あいつと俺が違つのは椅子だけだ』といふ言葉が怒の輪のようになつて身体の底をまわつているのを彼は感じた。手もひたさずにむこうを向いて立つてはいるが、机を握きえて、この椅子はいつ連んでもうえるか、と彼は今自分がかけていた椅子を指さして尋ねた。そして相手が応える前に、一方向的に明日の朝ひちばんでこの椅子を選び込んでほしい、と自分のとりの名を言けていた」。

問 1 傍線部 A に二つ穴あけられているが、この時の北川四郎の様子、説明として最も適当なものを、次の ① ～ ⑨ のうちから一つ選べ。解答番号は 11。

- ① 部長の決定を覆すには部員全員が連帯して立ち向かう必要があると思ひ、湧き上がる怒りを抑えて共に笑ふことで彼らとの一体感を生み出そうと努めている。
- ② 部長の決定よりも自分の販売企画の方が利益をもたらすものだと課長も分かっているはずなのに、保身のために部長に迎合した態度を許せないでいる。
- ③ 販売企画への思い入れの強さからすれば気持ちを切り替へられずにいる自分自身のことを持て余しながら、心には拳を持たせておきたいと思つている。
- ④ 部長の一方向的な決定に深く傷ついているが、今後と同じ職場で働くためには職場の雰囲気を変えてはならないと気がつき、無理やり笑おうとしている。
- ⑤ 心の動揺を鎮めて冷静に部長と交渉することが販売企画を再開する近道だと理解しているが、部長が情いという自分の気持ちに嘘をつけず告げている。

問 2 傍線部 B「急に笑顔をひこめた森村」とあるが、この森村の態度に対する北川四郎の心情の説明として最も適当なものを、次の ① ～ ⑨ のうちから一つ選べ。解答番号は 12。

- ① 自分のことをからかうような態度だった森村が、あまりに落ち込んでいる自分に対して同情的な態度をとるようになることへの反感が分らず、混乱しとまどつている。
- ② 森村は自分の様子からただならぬ雰囲気を感じ取つてやさしい言葉をかけてくれたように思つたが、その言葉は何か別の思ひから来せられたのではないかと思ひ直している。
- ③ 森村は部長と衝突しながら自分自身を氣にかけているものだが、それは過去に自分と同じような状況にあった森村を無視した自分へのあてつけなのではないかと考えている。
- ④ 課長と一緒に笑つていた森村が突然異様な表情で自分をなぐさめたことで、森村が自分を部長と敵対する仲間に引き入れようとしていているのではないかと語っている。
- ⑤ 先ほどまでおどけた様子だった森村が、立つ自分の態度に遠慮しはじめた様子を見て、部長と自分に共理する他者への威しきを感じ取っている。

問 3 傍線部C「秘芸をして来ます」と北川四郎は無愛想に課長に言ったとあるが、それはなぜか。その理由の説明として最も適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 13。

- ① 販売企画が中止されたショックから後輩の何気ない言葉が悪口と感じてしまっはと情緒不安定になっている自分に気がつき、企画への未練を断つて気分転換をしたいと思っただから。
- ② 同僚と雑談をすることで販売企画中止の動機を鎮めようと思っただが、部長の話題が出たことで部長への強い怒りがよみがえり、このまま職場にいても仕事をやる気分になれないと思っただから。
- ③ 部長に対する怒りは課長や同僚の頼りなさや浮き彫りになるにつれて徐々に薄れたが、大量に残された仕事に集中するために一度休憩した方がよいと思っただから。
- ④ 自分よりも販売実績のない部長に企画を台無しにされ、自分の保身を優先する課長にも助けをもらえない孤立無援状態にあることが激しく、いよいよ我慢できなれと思っただから。
- ⑤ 部長を腹立たしく思っ気持ちが悪くすぶっては仕事にならないと考え、今後行っべきことを考えるために、ひとまず職場を離れて冷静になる必要があると思っただから。

問 4 傍線部D「北川四郎の『ア・ニエ・ア・ニエ』も、足が階段にかかった瞬間に終りを告げていた」とあるが、この時の北川四郎の状況と心理の説明として最も適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 14。

- ① 北欧家具を見ていた時には仕事の憂鬱さを忘れられていたが、不意に会社で使っているのと同じ椅子を見つけてしまったこととで北欧家具は非現実的な世界に過ぎなかつたことに気づかされ、祭りの後のように強しい気持ちになつた。
- ② 優雅に並べられた北欧家具の数々を見ただことで爽快感を味わっていたが、展示を見終わるフバーツの階段に出てみれば、北欧家具を見た催事場も変わりはえのしなない現実と距離きであることが強く意識され、もの寂しい気持ちになつた。
- ③ 予想外に遭遇した北欧家具の展示会場の雰囲気と身を委ねることで日常から解放された気分を味わっていたが、展示場を一本出ると同時にそれまでの高揚感は一瞬に消え失せ、思つていながらいらない現実を直視意識して気持ちが悪くなつた。
- ④ 北欧家具の展示会場で高価な家具を見て回り、肘掛け椅子に腰かけただけで買ったつもりになって満足していたが、展示場の外で我に返ると、会社の椅子のことが結局片時も頭から離れていなかつたことに気づき、自分の卑小さに嫌気がさした。
- ⑤ フバーツの催事場で北欧家具を見ながら家族と過ごす時間を夢想することになり立つてはだ気持ち悪くなることできていたが、展示場の家具を見たことがかえって日常のつまらなさを際立たせ、暗澹たる思いを呼び起した。

問 5 傍線部E「そのアスクの列は冷ややかな事務機材の羅列にすぎなかつた」とあるが、この表現についての説明として最も適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 15。

- ① アスクの列は「七階の優雅な展示」と対比され、後者が見かけはよいが実用性に欠けることを強調している。
- ② アスクの列は「七階の優雅な展示」と対比され、前者は安価で使い勝手がよいが粗野であることを印象づけている。
- ③ 「冷ややかな」は、アスクや椅子がそれを使う人の社会的な地位や能力を残酷に反映することを表している。
- ④ アスクや椅子を「事務機材」と言い換え、それらが事務用の機材として高い実用性を持つことを表現している。
- ⑤ 「羅列」は、アスクや椅子に不必要な装飾が施されず、無機質な仕事道具以上の価値がないことを示唆している。

問 6 傍線部F「弾かれたように彼は部長椅子から立上つていた」とあるが、この時の北川四郎の心情の説明として最も適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 16。

- ① 自分が会社で使っている椅子と部長が使っている椅子の値段を比較したところ、自分が会社で使っている椅子は部長のものとは比べて桁違いに安いものであるとわかり、長年勤めてきた会社から爪はじきにされたような衝撃をおぼえていた。
- ② 会社で使われている椅子の価格や性能の違いが社内での地位や立場を具体として表現していることに思ひ至つたが、部長が使っているのと同じ椅子に坐つてみるとそのことが殊更に腹立たしく思えてきて、いらだちを抑えきれなくなつていた。
- ③ 部長が使っている椅子の坐り心地は自分の椅子よりも快適だが、七階の北欧製の椅子よりも劣るものであり、職場で北欧製の椅子に坐っている自分の姿を空想することで心の安寧を取り戻し、鬱屈した思いを一時しよつと躍起になつていた。
- ④ 部長と部下という立場の上下、また仕事の能力と意欲の高さが椅子の値段や坐り心地に如実に反映されている職場の現状に疑問を感じ、意味のない序列化を思い拒否して自分で満足できる仕事に取り組んでいこうと心を新たにしていく。
- ⑤ 数多くの椅子を観察するうちに、椅子の値段や坐り心地が本来平等であるべき社員間に不当な差別化と軋轢を生んでいることに気づき、自分の企画が退けられたことの穴にも椅子にあると感じられてきて、椅子への嫌悪を爆発させている。

問7 Wさんのクイズでは、本文の理解を深めるために教師から、本文について書かれた解説が【資料】として提示された。Wさんは【資料】を参考に本文に二箇所ある二重傍線部「あいつと他が違うのは椅子だけだ」という北川四郎の台詞について考察する」とにし、【構想×主】を作り、【文章】を書いた。このことについて、後の(i)・(ii)の問に答えよ。

【資料】

生気を失った組織にあつては、人間関係の感覚が、物のように凝固してしまつたと感じられることがある。黒井千次
の「椅子」は、まさしく椅子という物品に凝結してしまつた人間関係を描いている。主人公は、その凝結した関係を逆手
にとつて反抗を試みる。だが、彼の反抗の方法自体、彼の意識が椅子に囚われてしまつていることを示している。この
とき、椅子はただの物品ではない。それは物曲でありながら、サウリー・ズたちの生々しい欲望を吸収して息づいてい
る。

(井口晴男「解説」『戦後短編小説再発見17 組織と個人』)

【構想×中】

- ・ 本文は「椅子」という物品に凝結してしまつた人間関係を描いている。
- ・ 北川四郎はその凝結した関係を逆手にとって反抗を試みる。
- 「彼の意識が椅子に囚われてしまつていゝことを示している」。

(ii) 本文からわかること

- ・ 北川四郎は部長に対して、「あいつと他が違うのは椅子だけだ」と思っている。
- ・ 北川四郎は部長用の椅子を購入し、会社へ運び込もうとしている。

【文章】

【資料】は、本文の主題を「椅子」という物品に凝結してしまつた人間関係」と捉えている。人間関係とは本来、人や時、
場所によつてさまざまな形をこつる、柔軟性を持つたものだ。それが北川四郎にとっては、「椅子」という物品によつて
言い表されるほど凝り固まつてしまつた。つまり、**I** しまつた。そのため北川四郎は部長用の椅子を購入
して会社に運び込もうとで、**II** ことができると思つたのではないだろうか。なぜなら、「あいつと他が違う
のは椅子だけだ」からである。

【レポート】

第3問

ア子さんとは、気候変動への対応策について調べ、「気候変動問題への対策—私たちにできること—」という題で自分
の考えを【レポート】にまとめた。【資料Ⅰ】、【資料Ⅲ】は、【レポート】に引用するために、参考文献の一部を見出しを付けて整
理したものである。これらを読んで、後の問(問1～4)に答えよ。(配点 20)

- ① 本来持っていた仕事への自信を取り戻す
- ② 上司に遠慮することなく自らの能力を発揮する
- ③ 部長と同等の立場のようにふるまい一矢報いる
- ④ こじれてしまつた人間関係を円滑にする

(ii) 空欄 **II** に入るものとして最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は **18**。

- ① 出世して権力を手に入れたという欲望にとられて
- ② 椅子の選いによつてしか社員の身分がつかなくなつて
- ③ 部長という人間と部長の坐っている椅子が等価になつて
- ④ 同僚の気遣いを受け入れられなほ意固地になつて

(i) 空欄 **I** に入るものとして最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は **17**。

温室効果ガスの濃度の上昇による気候変動の問題は、地球環境問題の中でも重大な問題として長年世界中で議論が行われ
てきたが、この問題の難しさはどのような点にあるのだろうか。
【資料Ⅰ】の図1によると、日本の温室効果ガス排出量は2013年度以降減少を続けており、2020年度には30年間で
最も低い数値になっている。しかし、日本は国際社会との協調のもと、2050年までの温室効果ガス排出実質ゼロを目指す
し、2030年までに2013年度比で実質40%削減することを目標として宣言している。【資料Ⅰ】の表1によると、20
30年度目標の達成にはさらなる対策を打ち出していくことが必要だと考えられる。また、表1、図2の
点にも着目すると、**X** 点にも着目すると、**Y** 点にも着目すると、**CO₂**の排出は私たちの生活からも決して避ける事柄ではない。
一方で気候変動問題には、公害や森林伐採などの他の環境問題とは異なり、**Y** などの特徴が
あり、対処が難しい。たしかに、私たちの周りにも気候変動や**CO₂**の問題について知っていて、まだ対策に関心を持って
はいても、実際にできる行動は限られていたり、実際の効果に対して疑問を抱いたりしている人は多いだろう。
しかし、こうした問題を抱えているからこそ、気候変動問題には私たちが含む多くの人々が協調し合つて対応することが
重要であり、そのため仕組み作りも進められている。私たちの生活においても様々な対策が可能だ。例えば、
Z などである。
これから調査を続け、自分ができる対策から挑戦してきたい。

【資料Ⅰ】 温室効果ガス排出の現状と目標

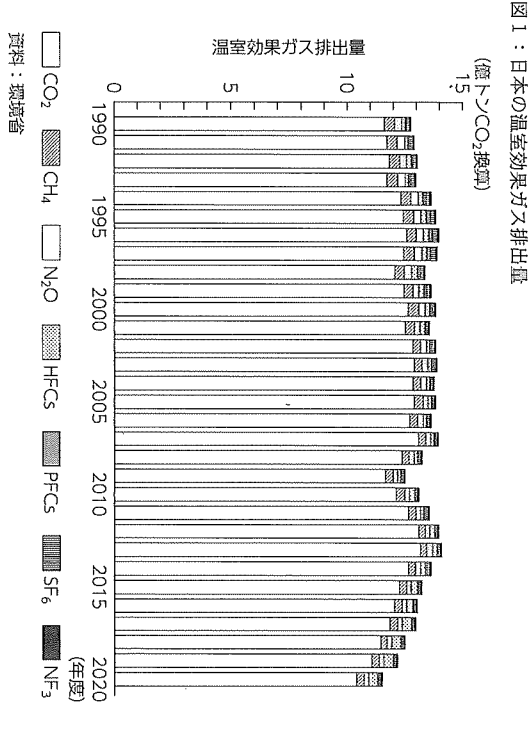
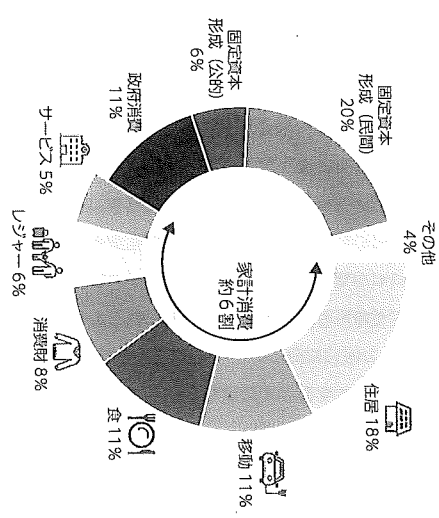


表1：温室効果ガスのガス別・部門別の排出量・吸収量(注1・生産ベース)

2030年度目標に向けた進捗							
温室効果ガス排出量・吸収量 (単位：億t-CO ₂)	2013年度実績	2030年度目標	2020年度実績 (推定値)	2030年度削減率 削減率	2020年度削減率 (推定値)		吸収源※2
	14.08	7.60	11.06	▲46%	▲22%	▲22%	
エネルギー起源CO ₂	12.35	6.77	9.67	▲45%	▲22%	▲22%	非エネルギー起源 CO ₂ 、メタン、N ₂ O (FCG等4ガス (70%削減)
産業	4.63	2.89	3.56	▲38%	▲23%	▲23%	
業務その他	2.38	1.16	1.82	▲51%	23%	23%	
部門別	2.08	0.70	1.66	▲66%	▲20%	▲20%	
運輸	2.24	1.46	1.85	▲35%	18%	18%	
エネルギー転換	1.06	0.56	0.82	▲47%	▲23%	▲23%	吸収源※2
非エネルギー起源CO ₂ 、メタン、N ₂ O	1.34	1.15	1.25	▲14%	▲7%	▲7%	
HFC等4ガス(70%削減)	0.39	0.22	0.58	▲44%	+47%	+47%	
	-	▲0.48	▲0.45	-	-	-	

図1：日本の温室効果ガス排出量



資料：南斉規介(2019)産業連関表による環境負荷原単位データベース(3EID) (国立環境研究所)、Nansai et al. (2020) Resources. Conservation & Recycling 152 104525、総務省(2015)平成27年産業連関表に基づき国立環境研究所及び地球環境戦略研究機関(IIGES)にて推計。

※各項目は、我が国で消費・固定資本形成される製品・サービス毎のライフサイクル(資源の採取、素材の加工、製品の製造、流通、小売、使用、廃棄)において生じる温室効果ガス排出量(カーボンプットアリティ)を算定し、合算したものの(国内の生産ベースの直接排出量と一致しない)。

- (注)
- 1 生産ベース——ガソリン・電気・ガスなどの使用量を元にして温室効果ガスの排出量を算出する方法。
 - 2 吸収源——植林等CO₂の吸収量を増やすための取り組みによる数値。
 - 3 消費ベース——最終的な製品やサービスからさかのぼって、それを生産するためには排出された温室効果ガスを算出する方法。

【資料Ⅱ】 環境問題への国家間協調の難しさ

地球環境問題をめぐる国家間協調の難しさはどこにあるのでしょうか。環境条約のような制度が存在しない場合、主に地球環境に根ざす二つの性質が、協調を難しくするといえるでしょう。

1つ目は、環境問題への対処が、本質的に国々の経済利益に反するという点です。今日の世界では、経済利益の追求が重視され、経済成長を通じて一國の富を拡大することが国家の目的であるといっても過言ではありません。富の拡大は国力の増大と等しく、ひいては安全保障上の利益と深く結びつくため、経済成長は国の存立さえも左右する重要な問題です。その一方で環境問題とは、特に産業革命以降、環境資源が経済活動によって無制限に利用されまた汚染されてきた結果、経済成長の代償として顕在化した問題といえます。これは、環境資源に対してその価値を反映する適切な市場価格がつけられてこなかったことが背景にあります。このように経済利益の追求が環境問題を生み出してきたという事実をふまれば、環境問題への対処が経済利益を損なうものであることは容易に想像がつくでしょう。

例えば、経済成長の大きな原動力である企業に対して、環境資源に追加的な価格を払うよう求めることや、環境汚染の抑制を求めることは、企業に追加的なコストを負担させることとなります。その結果として、国全体の経済成長にも負の影響が及びます。もちろん、環境問題の種類によって、対処にかかるコストの程度は異なります。しかし、環境問題への対処は多少なかる経済利益に反するのであって、それゆえに国々は環境協調に積極的になりにくいのです。

2つ目は、他国による協調に対するフリーライド(ただ乗り)への懸念が挙げられます。きれいな空気や水といった有限の環境資源は、誰もが自由にそれを利用し、その恩恵を受けられるという非排他性の性質をもちます。したがって、例えば地球規模の大気や海洋の汚染が問題となっていて、一部の国々が協調することによって得られるきれいな空気や水は、協調に参加した国だけではなく協調に参加しなかった国も同様に使うことができます。つまり、協調に参加しない国は、環境問題の対処にかかるコストを払わずしてきれいな空気や水を利用し、他国の協調にフリーライドできるのです。環境条約が存在しない場合には、環境への対処にかかるコストが大きければ大きいほどフリーライドの誘因は高まり、この問題はより深刻となります。そして、こうしたフリーライドを阻止する術がありません。したがってどのような国でもフリーライドする誘引をもつのです。そして、他国にただ乗りをされることへの懸念は国々の協調の意欲を削ぎ、その結果、協調は実現しません。

(宇治浩幸)「国際環境協調をどのように促すか」(一による)

【資料Ⅲ】 環境問題への個々人の関わり方

例えば、あなたが気候変動を憂慮し、明日から自動車に乗ることをやめたという。それはとても素晴らしいことだ。しかし、もしもあなたが以外の全ての人が行動を変えないなら、あなたがどれだけ頑張っても気候変動は解決されないだろう。もちろん、一人ひとりの個人がそれぞれに努力し、一斉に行動を変えさせることも可能かもしれない。しかし普通に考えてそれは簡単ではない。むしろ、そのように集団的な行動を変えさせるためには、公共的な政策を講じることによって、社会のシステムを変えていく必要がある。しかし、そうであるとしたら、(注)未来倫理が重要なのだとしても、それはそうした政策を考える人にとって重要なのであって、個人には関係ないということになってしまうのではないか。それがごく一般的な考え方のようにも思える。

けれども、実はそんなことはない。私たちは個人としても未来倫理の実践に関与することができるはずである。まず、一人の市民として私たちにできることは、政治家に対して意見を表明することである。例えば選挙において投票することや、政策に対して賛否を表明すれば、政治家に対して自分の意見を提示することができる。あるいは選挙を介すことも、何らかの活動を行って、こういう政策を作りたいと、訴えかけることもできる。政治を変えるのは簡単ではないが、議会制民主主義を採る国であれば、このような形で個人が行動を起こすことは可能である。

別のアプローチの仕方もある。それは、消費者として未来倫理の実践に關与するということだ。消費者としてとは、どういったところか。一言で言えば、それは未来に配慮した企業から商品やサービスを購入する、という関わり方である。近年、社会課題の解決への取り組みは、「企業の社会的責任(CSR: corporate social responsibility)」として、重要な企業活動として認識されている。したがって、未来への倫理的な組織に取り組み企業を支援することは、消費者として未来世代に寄与することの意味するだろう。

(注) 未来倫理——【資料Ⅱ】は未来世代への責任(未来倫理)について考える書籍からの引用である。

(山谷洋志『未来倫理』による)

問 2 【1ポイント】の空欄Aには、【資料Ⅱ】および【資料Ⅲ】の要約が入る。その要約として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 20。

- ① 経済的コストや他国によるただ乗りの懸念から国際協調が難しいため、各国で国民一人一人に対策を呼びかけるしかないが、個人に当事者意識を持たせるのも難しいこと
- ② 影響範囲が広く一人一人の個人での取り組みでは解決することのできな問題であり、対応へのモチベーションを維持することが難しいため、対策に経済的なコストがかかること
- ③ 対策の効果が表れるまでにはある程度の時間を要すること、実際に問題の影響を受けるのは現在の人々ではなく未来の世代であること、また社会全体の人々の行動を一斉に変えるのは難しいこと
- ④ 対策に経済的なコストがかかること、環境は特定の人や国の所有物ではないためまったく対策をしていない人々にだけ乗りされる恐れがあること、また個人個人で対応することは難しく、社会での協調が必要になること
- ⑤ 気候変動は人間の経済的利益を追求する姿勢に端を発しており、対応すれば自分たちの生活が脅かされることになるという点、また環境への働きかけは影響範囲が広いため、他国にただ乗りされる可能性があり、争いの火種になること

問 1 【1ポイント】の空欄Aには、【1ポイント】の展開を踏まえた【資料Ⅰ】の説明が入る。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 19。

- ① 生産ペース、消費ペースともに家庭または住居に關連する温室効果ガス排出量は全体の2割に満たない数値にとどまっている
- ② 消費ペースで見ると、家計消費に關連する温室効果ガスの排出量は全体の約6割を占めているが、生産ペースの排出量では全体の1.5割に満たない
- ③ 生産ペースでは家庭に關する温室効果ガス排出量は運輸に關連する排出量を下回っているが、消費ペースでは住居関連の排出量が移動に關連する排出量を上回っている
- ④ 生産ペースの温室効果ガス排出量では、家庭からの排出量は2030年度までの削減目標を達成しておらず、まだ消費ペースでの排出量を見ると、家計消費が約6割を占めている
- ⑤ 生産ペースで見たときの2030年度目標における家庭からの温室効果ガス排出量と、消費ペースで見たときの家計消費に關連する排出量と、ともに全体の約6割を占めている

問 3 【1ポイント】の空欄Aには、個人でできる気候変動問題への対策の例が入る。その例として適当でないものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 21。

- ① 温室効果ガスを削減する取り組みについて調べ、啓発活動に協力すること
- ② 生産過程におけるエネルギー効率の向上に力を入れて、いる業者の商品を買おうにすること
- ③ 食品の産地を調べ、CO2濃度の低いきれいな空気の中で作られたものを選んで購入すること
- ④ 自宅の家賃を選ぶ際には消費電力などを確認し省エネルギー性能の良いものを選ぶようにすること
- ⑤ CO2を吸収したり排出を削減したりする新技術の開発に取り組んで、いる企業の製品を買おうにすること

問 4 アキラさんは「しりとり」の主張をより理解してもらったためには議論が不十分であることに気づき、補足しようと考えた。その内容として適切なものを、次の①～⑥のうちから二つ選べ。ただし、解答の順序は問わない。解答番号は

22・23。

- ① 気候変動は産業革命以降に起こった問題であり、地球の歴史の中では、最も最近の出来事であるという点。
② 以前は新風国に比べ先進国が多く、温室効果ガスを排出しており、削減の責任は各国で同等ではないという点。
③ 温室効果ガスにはいくつもの副産物があるが、排出量全体のうち、割合では大部分をCO₂が占めているという点。
④ 消費一入の温室効果ガス排出量を算出するためには、細かな情報が必要になるため長い時間がかかるという点。
⑤ 温室効果ガスの増加によって地球の平均気温が上昇することにより、冬のエネルギー使用量が低下するという点。
⑥ 温室効果ガスは目に見えず、また気候に影響が現れるまで一定の時間がかかるため、対策の効果が実感されにくい点。

第4問 次の文章は、親の初める縁談にも関心を示さず出家を志向する男君(中納言)と菫の宿の女君(本文では「女」)との恋を描いた『八重葎』の一節である。男君が、偶然通りかかった菫の宿から聞こえる琴の音に惹かれて立ち寄り、その家の女君と語らい合つてそのまゝ一夜を過ごす。本文は、それに続く場面である。これを読んで、後の問い(問1～5)に答えよ。なお、設問

の報告で本文の縁談に①～⑤の番号を付してある。(配点 45)

① 冬立つまゝに、日はいへたばかり、曇り、時雨なる木柱らしにうち散りたる櫓の葉は、迎水も見えず埋みて、山里の心地してをかしきぞ、そよめきわたれり入る宿々に、今やせと吹き出づる風にははらと散りて、御冠直衣の袖にとまる紅葉のをかしきぞ、「かれ見縮く。一月の雪に衣には縮つたれ。ちま敷くたるわづななりや」と、袂ひ縮ふ。紫の敷き直衣に映え縮へる手つき、顔の匂ひの愛敬は、女ををかしと見縮ふらわかし。例の「にまかにうろ語らひ、長き世をさへかけて頼めだまふ」と多かるべし。

② 「いかで名乗りし縮く。A かはかりになりぬれば、いかなりともあるかに思ふべき仲の契りかは」と、ゆかしがり縮ふに、忍び縮くすへきにはあらぬぞ、言ひ出でわしとの櫓まじつ隙つかしければ、「木の丸殿に侍らば」と言ふも、はかなだちてをかひ。

「おぼつかかな誰か植ゑぞめし紫の心を酔へつまじなりけん」
なほ聞しえ縮く。かう嘆じたまふは、行く末思ふるまじしき心と涙ひ縮ふや。君によりてぞ、遠き旅路の苦しさをも耐らひたれば、まじへてひびくるべき程し心ぞ」と、のたまへと、
「冬夜の灯に紫の紫はあるにやあらぬ程ぞしなりけり」
「はのかじ信ふ。」
「あやし、この紫は武蔵野のにもあるまじつたがしけれ」と、涙れ縮ふまじとをかし。

③ 時愛に縮つち歩き縮ふも苦しければ、「朝夕眺むる所へ参て行かまし」と、途絶えがたへ思ひたるは、初めの御心には違ひにたるあやとべくたりや。それと、のだまひおきし御あだりをさへ、いとほしく聞き通へすに、心にまかせたる菫のものがつかひをしてはなけだるうとにかなたがたに聞かれたまつらんも、はしたなかへてし。

④ 上ばかりこそかなしきものにせよと縮ふあまりに、かかるところいとほしく、かしからずと聞かせ縮くまじけれ、かの大臣のわたりに言ひ驛かむ言の葉さへ思ひつづけられ縮くば、恥つかして、あるまじく思す。

⑤ 上の御針に速り縮へば、長衣櫃に成おこして集まり居る人の有様、いづれとなくめやすく、袂直衣のいづいやすらかに着なして、候ひ馴れたる愛配を、さかしと見縮ひて、
「いで何事を問ひゆるぞ。そと聞かせよ。なきほどは誰も誰も心地よけにて、をかしき歌ものがたりもすると思ゆれど、まろだに来れば、いみじき虫などの泣ひ来るやうに、それそれと言ひてはざりのき、音無の里つくり出づるや。とるはつひに振れと密へ聞ひゆるに、え縮くすへきと隠るるもあり。あるはつきしるひうつ伏しなすべし。
「あやしきむなかた。この聖をそのたまはんは、三瀬川の源へにやあらん。仏の顔より外に見るべきものも思えぬしれしれしとて立ち縮ふ。」
とせし。

(注) 1 二月の雪に衣には縮つたれ——「菫花を折つて頭に挿めば 二月の雪衣に縮つ」(『頼朝御教訓』)による表現。

3 初めの御心——出家を考ふる男君は、これまで女世には関心を示さないでいた。
4 のたまひおきし——主語は男君の上と父君。こゝは、言に残しておいた縁談のこと。

5 上——男君の母君。

6 かの大臣のわたり——男君の縁談相手の古大臣家。

7 音無の里——言や声が聞こえないといふ意を含ませた表現。こゝは、あたりのほからずは泣ける里の意。

8 死にかへりわびあへり——死にぞうになるへらの困り果てようと言つたもの。

9 大人みたる——年配で世慣れている女房。和歌の教養があり、紫のかけら巻に映けている。

10 森の下草さへ『願だにすまば』——古歌を讀まえ、そいふ歌は誰も相手にしてくれない、と戯れたもの。

11 川にながれず——「やとなしの川とぞつひに流れけるはむ物思ふ人の涙は」という和歌をふまえる。

12 その水上は、御前ぞ知らせ縮くべき——「色ふかき源の川の水上は人をわすれぬかなりけり」という和歌をふまえた女房の発言。源川の水上は、おなだ様がよくご存知でしょう、の意。

13 三瀬川の源へ——三瀬川は、あの世で渡る三瀬の川のことで、女君が死ぬと、この川を渡りしめて逢つた里に背負われて渡るという俗信による表現。こゝは、女房の発言に就いて戯れしつたもの。

24
1
26

- ㊦ いまかにいふ體に
① いまゝもと聞ひだだし
② ねどいふに言ひ交わし
③ 暗に疑心をほのめかし
④ いまゝ或合に諷刺して
⑤ いふせふに披露して

- ㊧ はかたどつて
① 申し訳なせうにして
② はぐなせうにして
③ だよりなせうにして
④ わせうといふ體を舞つて
⑤ だよりなせうといふて

- ㊨ はしたなせうし
① おつとせうにせうなら
② 無礼になつてしまつたやう
③ ひかえぬにしてゐよう
④ 困らせてしまつたやう
⑤ 無禮態に equal せられるやう

句や表現に関する説明として最も適切なものを、次の ① ～ ④ のうちから一つ選べ。解答番号は

27

- ① 「かばかりにたり」の「かばかり」は「これほど」の意になる副詞。「なり」は断定の助動詞で、男君の感情の深さが表現されている。

- ② 「いかなりとも」の「とも」は接続助詞で、女君の身の上がどうあつたとしても思ひは変わらぬという男君の思いが表現されている。

- ③ 「おろかに」は、形容詞「おろかなり」の連用形。「おろかに思ふ」で、男君の女君に対する愚直なまでの愛が表現されている。

- ④ 「契りかは」の「か」は疑問の係助詞で、二人の仲は途切れることなく続くのだろつかといふ男君の不安な気持ちさが表現されている。

1
3
28

- ① 紅葉を二月の雪に見立てて、衣の袖の紅葉を振り振り男君の風雅なふるまひに女君は心ひかれ、自分の将来も安心して話せると思っている。
- ② 男君は女君が名前を教えないのは、いつから変わりがするのではないかと自分を疑っているからだと思ひ、押氣心を持つことはないと訴えた。
- ③ 男君に名前を教えてほしいと促されても、女君は出会つたばかりの男君の真意がわからず、まだ不信任があるために名乗ることはしなかった。
- ④ 露にぬれながら女君のもとに通うのはお互いに不都合なので、男君は女君の気持ちにも配慮して安心できる所に女君を連れて行つと思つた。
- ⑤ 男君の亡き父の言に残つた縁談については、男君も良い話だと思ひ乗り氣になつていたので、梅の宿の女君とは頃合いをみて別れるつもりだつた。

問 4

4 5 段落の内容に関する説明として最も適切なものを、次の ① ～ ④ のうちから一つ選べ。解答番号は

29

- ① 男君の母君は、男君が程の女君の世話をしていることに目をつろひ、男君の縁戚相手の右大臣家にそのことが耳に入つたら恥ずかしいことなので、決して知られてはならぬことだと考へてゐた。
- ② 母君に仕える女房たちに、男君が会話の内容を尋ねても自分を嫌つて逃げ隠れすることに氣分を害され、これでは音無の里になつて、嫌われ者の娘が川になつて流れることだと皮肉を言った。
- ③ 老女房は、自分たちに無理矢理口を開かせようとする男君に対し、古歌にあるように「遠の恋をしてはじめて涙が川になつて流れ出るものなので、秘めて口に出さぬい恨ましが大切だと区論した。
- ④ 老女房にやりこめられた男君は、一心に仏に皈依する私は思ひかしくいまでに恋とは無縁ですのに、あなたは私と契りを交わして三途の川の手引きにでもするおつもりかと駭れ言を言つて席を立つた。

問 5 次に示すのは、桜葉で本文を読んだ後の、話し合いの様子である。これを読んで、後の①・②の問に答えよ。

教師 — 本文の②段落の内容をより深く理解するために、次における二首の和歌とおわせて考えてみましょう。【資料】の1にある歌は、桜葉でもとりあげた『伊勢物語』の「初冠」の段にあるものです。男が奈良の春日の里に鷹狩りに行った際、里に住む美しい姉妹を埋問見して、着ていた信夫掬の袂を切っておくった歌でしたね。傍線部Bの歌の趣旨と同じと考えてよいでしょう。また、傍線部Cも、【資料】のIIの歌をふまえた表現になります。

【資料】

1 陸奥のしのむわづすり誰ゆゑに乱れそめにし我ならなくに

(注) 1 しる — 植物の名前(忍ふ草)と言われ、和歌では「忍ふ姿」を暗示する。

2 おちずの — 乱れたちて地に落ち出した桜枝のこと。

II 紫のひともとゆゑに武蔵野の草はみながらおはれとぞ見る

(古今和歌集)

(注) 紫 — 紫草。夏に白い花を咲かせ、根は紫色に染める染料につかう。

教師 — まず、傍線部Bの歌と、【資料】のIの歌を読み比べてみましょう。

生徒A — どちらの歌にも「ぞめ」とあるけれど、桜葉で「ぞめ」ということかな。

生徒B — いや、傍線部Bの歌では「種をそめて」とあるので、「ぞめ」は「初め」だと思つて、この歌は男君が女君に詠みかけた歌で、「紫の心を砕く」というのは思ひ留むことを言つたのだと思つ。

生徒C — 私もBさんの考えに賛成。「紫は紫草のこと」で、ここは誰の女君のことを言つたものだよな。

生徒A — なるほど。それで【資料】のIの歌も「乱れ初め」ということか。紫の思ひに心を乱しているように思ふな。「誰ゆ

ゑに」とか「我ならなくに」も傍線部Bの歌と関連しそうですね。

生徒B — 「我ならなくに」は「私ではありません」の意味だね。

生徒C — そう考えてくると、Bの歌は男君の詠んだ歌で、

X

教師 — そうだね。よくできました。次に【資料】のIIの歌について考えてみましょう。平安時代に入ると、この歌が

広く世に知られるようになり「武蔵野」といえば「紫草」が詠まれるようになりました。

生徒A — 「紫のひとつとは紫草一本といふことですよ」。やはり愛する人を喻えたものだよな。

生徒B — 私もAさんと同じ考えだね。また、傍線部Cの後に「戯れ給ふ」と、尊敬表現があるので、これは男君の会話だとわかるよね。

生徒C — なるほど。それならば、

Y

教師 — それでよいですね。このように引用された表現について、本になる歌と考え合わせることでより理解が深まります。

- (1) 空欄 X に入る発言として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 30。
- ① 紫草の素性を知らない私にとって、将来あなたを妻として迎えることに不安があるので、もっとあなたのことを教えてほしいと哀願する歌
- ② いったい誰のせいでこんなにも心を乱すことになったのか、そのきつかけとなった紫草のようなあなたに深く心意がれる思いを詠んだ歌
- ③ 紫草のようなあなたに次第に心がひかれるのを宿命と思ひながら、かなわぬ恋の行方を悲観しているのは私ではなくあなたの方だと恨む歌
- ④ 紫草のようなあなたへの心を悩ませるのは本意だが、今後このような障害があったとしても、あなたを不幸にすることはないかと約束する歌
- (2) 空欄 Y に入る発言として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 31。

- ① 【資料】のIIの歌は、「一人の人を愛することによって、はじめて誰からも慕われるようになるものだ」と詠んでいるが、傍線部Cでは、女君の縁者には誰でも頼しみを感ずるものだと言っている
- ② 【資料】のIIの歌は、「愛してくれる人が一人でもあれば、誰に対しても慕しみの心を持つことができると詠んでいるが、傍線部Cでは、女君にはもともと自分に心を明いてほしいと言っている
- ③ 【資料】のIIの歌は、「愛する人があくまでも中心であって誰に対しても愛が及ぶわけではないと詠んでいるが、傍線部Cでは、女君以外の女性に対しても深い愛が向かうことだと言っている
- ④ 【資料】のIIの歌は、「愛する人を中心に、それとゆかりのある人に来て愛が及んでゆくものだ」と詠んでいるが、傍線部Cでは、女君の美しさは他のどんな女性よりも際立つと言っている

ところがある。(配点 45)

第5問 北来^{きた}の文面^{ぶんめん}は、中央政府から地方官へと左遷され、赴任先の隣國で「耕竹図」(曲がつた竹の影)を描いた。次の【文章1】は文面がその絵の題材となった竹について説明したものの、【文章1】は文面の死後、親交の深かった藤原がその絵について述べたものである。これらを読んで、後の問(問1～7)に答えよ。なお、設問の都合で本文を改め、返り点、送り仮名を省いた

【文章1】

紆竹生^こ于陵陽^{りやう}。守居^{しき}之北崖^{きたがき}。其始^{そのはじ}共^{とも}本^{もと}以^{もつ}出^で去^さ。土未^{つちま}幾^{いく}而^{なり}遽^{たち}分^{わか}。其^{その}一^{ひと}裁^は三^{さん}尺^{しゃく}。偶^{ぐう}然^{ぜん}無^な他^た枝^{えだ}。乃^{すなは}柄^へ盛^{さか}。将^{まさ}挺^{たて}起^{たて}。垂^た蔵^{そう}所^{ところ}。刺^さ力^{りき}不^な得^え。蝸^こ害^{がい}之^の使^し然^{しか}爾^{なり}。其^{その}一^{ひと}既^{すで}独^{ひとり}。盛^{さか}将^{まさ}挺^{たて}起^{たて}。垂^た蔵^{そう}所^{ところ}。刺^さ力^{りき}不^な得^え。

觴^{さう}曾^{さへ}莫^な知^し下^{した}其^{その}歴^{れき}寒^{かん}暑^{しょ}之^の何^{いか}許^{ゆる}上^{うへ}也^{なり}。

余采^{さい}葉^{えふ}過^か其^{その}下^{した}。見^み之^の命^{いのち}二^{ふた}童^{どう}奴^に。撥^{はく}三^{さん}荒^{あら}榛^{しん}。除^お腐^{くさ}蔓^{まん}。扶^{たす}起^{たて}而^{なり}。

支^し持^ぢ之^の則^{すなは}已^や。堅^{けん}彊^{きやう}。僵^{きやう}寢^ね寢^ね。宛^{えん}附^ふ地^ち。若^し不^な欲^ほ使^し下^{した}人^{ひと}加^か哀^あ憐^{れん}於^に。

其、不_レ得_レ遂_ニ諸_ノ生_ニ理_ヲ者_ニ。然_ニ觥_ル其_ヲ、抱_ク節_ヲ也_、剛_ニ深_ニ而_レ隆_高。其_ヲ布_ル葉_ヲ也_、癯_瘠而_レ修_長。是_レ所_レ謂_ニ戰_ニ風_ニ日_ニ、傲_ニ氷_ニ霜_ニ、凌_ニ突_ニ四_ニ時_ニ、磨_ニ轆_ニ万

(文同『丹淵集』による)

草_ヲ之_ヲ奇_ニ植_也。

【文章Ⅱ】

余_ハ得_ニ其_ノ慕_ヲ本_ニ以_テ遺_ニ玉_ニ冊_ニ官_ニ、祁_ニ永_ニ使_ニ刻_ニ之_ヲ石_ニ以_テ為_ニ好_ニ事_ニ者_、動_ニ心_ニ駭_ニ目_ニ詭_ニ特_ニ之_ヲ觥_ニ且_ニ以_テ想_ニ見_ニ亡_ニ友_ニ之_ヲ風_ニ節_ニ其_ヲ屈_ニ而_レ不_ル。據_ニ者_ニ蓋_ニ如_ニ此_ニ云_ヲ。

(蘇軾『東坡題跋』による)

(注) 1 守居——長富の住まい。
2 猥——「穢」と同じ。

- 3 枿——竹の根株から新しく出た芽。
- 4 籊——竹の皮。生長に従って下の方から落ちる。
- 5 蝸——虫の名。
- 6 挺超——抜け出す。
- 7 垂屐——大きな筧。
- 8 屐——押しのける。
- 9 童奴——子どもの召使ひ。
- 10 撥荒榛——荒れた木々を取り除く。
- 11 監臨監窺附地——固く伸び広がり、曲がって地につらいる。
- 12 窺涪——細い。
- 13 傲——ものともしない。
- 14 磨轆——しのぐ。
- 15 其琴本——「紺竹区」を模写した銘。
- 16 玉冊、祁永——「玉冊」は官職の名。「祁永」は人名。
- 17 詭特——「奇特」と同じ。

問2 傍線部A「其始共本以出」去、士未幾而遂分の解釈として最も適当なものを、次の①～⑥のうちから一つ選べ。解答番号は 34。

- ① 竹の生え始めは同じ根元から出ているが、地面を出てわずかのところで急に分かれている。
- ② 竹はもともと二本生えていたが、生え始めて間もない頃に突然別々の場所に移された。
- ③ 竹は初めは密集して生えていたが、長い時間をかけて伸びるうちに次第にまばらになった。
- ④ 竹の根元はもともと大きく出っ張っていて、土の上にもわずかに根元がのぞいている。
- ⑤ 竹の生え始めは住居に隣接しているが、地面を離れるにつれて次第に住居から離れている。

- (イ) 「通」 33
① 誤って ② 飛び越えて ③ 通って ④ 暮らして ⑤ 眺めて
- (ロ) 「通」 32
① 誤って ② 飛び越えて ③ 通って ④ 暮らして ⑤ 眺めて

問1 波線部「通」・「通」の意味として最も適当なものを、次の各群の①～⑥のうちから、それぞれ一つずつ選べ。解答番号は 32・33。

問3 傍線部B「蓋其頭未脱釋時蝸害之使然爾」の返り点の付け方と書き下し文との組合せとして最も適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 35。

- ① 蓋其頭未脱釋時蝸害之使然爾 蓋し其の頭未だ脱せざる釋の時に蝸之を害はしめて然るのみ
- ② 蓋其頭未脱釋時蝸害之使然爾 蓋し其の頭の未だ脱せざる釋は時に蝸之を害ひて爾をして然らしむ
- ③ 蓋其頭未脱釋時蝸害之使然爾 蓋し其の頭未だ釋の時に蝸を害ふの爾を然らしむるを脱せず
- ④ 蓋其頭未脱釋時蝸害之使然爾 蓋し其の頭未だ釋の時に蝸の害を之れ使ひて然るを脱せざるのみ
- ⑤ 蓋其頭未脱釋時蝸害之使然爾 蓋し其の頭未だ釋を脱せざる時に蝸之を害ひて然らしむるのみ

問4 傍線部C「☒垂蔽所軋」について、(a)空欄 ☒に入る語と、(b)書き下し文との組合せとして最も適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 36。

- ① (a) 非 (b) 垂蔽の軋する所に非ず
- ② (a) 雖 (b) 垂蔽の軋する所に雖も
- ③ (a) 為 (b) 垂蔽の軋する所に為り
- ④ (a) 如 (b) 如し垂蔽の軋する所ならば
- ⑤ (a) 安 (b) 安くにか垂蔽の軋する所なる

問5 傍線部D「若くは欲使人加哀憐於其不得遂諸生理」章とほむらいつの意味を表しているか。その説明として最も適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 37。

- ① 竹は、竹の本来の性質を全うできていない自分を憐れまないでほしいと思っているかのように、固く地面を這っている
- ② 竹は、正しい生き方を心得ない人間に憐れみを向けられることを拒んでいるかのように、強く根を張って動かぬかつ
- ③ 竹は、人の手が加えられてかえって生きる道理を失ってしまったことを嘆いているかのように、ひどく荒れ果てている
- ④ 竹は、本当は竹としてあるべき姿でいられないことを人に同情されたがっているかのように、人の手に身を委ねている
- ⑤ 竹は、生きのびることとがでぎずに枯れてしまった枝葉を取られることを嫌がっているかのように、固く葉をつけてい

問6 傍線部E「萬草之奇植也」とあるが、筆者が竹を評価している点として適当でないものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 38。

- ① 節が盛り上がって立派である点。
- ② 風や日差しに負けなかった点。
- ③ 葉が細く長く伸びている点。
- ④ 気候に適応しようとして自ら曲がった点。
- ⑤ 多くの季節を乗り越えてきた点。